



「東日本大震災」支援・横軸連携（姉妹校交流）

横軸連携の活動として、7月10日（木）に盛岡市立河南中学校を会場に、宮古市立第二中学校2年生と盛岡市立河南中学校2年生との交流会が開かれました。

「お互いの学校の良いところを紹介しあい、生徒会活動につなげたい」という願いから、今回は、宮古二中が岩手山青少年の家での宿泊研修の帰り道に



盛岡河南中に立ち寄るという形で、約1時間、学校紹介、合唱交流、エール交換などが行われました。

被災校バス支援の継続

県中学校長会では、全日中からの義援金を活用した被災校バス支援を継続しています。また、ベルマーク財団からの義援金によるバス支援もあります。

バス支援対象校は次の26校です。

陸前高田第一中、気仙中、高田東中、横田中、大船渡第一中、大船渡中、末崎中、赤崎中、綾里中、越喜来中、釜石中、大平中、唐丹中、釜石東中、大槌中、吉里吉里中、宮古第一中、宮古第二中、宮古河南中、津軽石中、重茂中、田老第一中、山田中、小本中、田野畑中、野田中

このバス支援は、今年度を含め3年間は継続できる見通しです。

全日本中学校長会役員による被災県訪問

平成26年7月14日（月）に全日本中学校長会役員による東日本大震災被災3県（岩手、宮城、福島）への訪問が行われ、松岡敬明会長、伊藤俊典総務部長、榎本智司支援委員長、堀井榮夫事務局長の4名が来県されました。

岩手県中学校長会からは、小岩和彦会長、佐藤嘉彦総務部長、菅原正弘生徒指導部長が出席し、盛岡市立下橋中学校にて情報交換が行われました。

はじめに、全日中の松岡敬明会長から、「震災後、毎年被災3県への訪問を行ってきた。各県の実態、全日中からの義援金の使途や活用等を伺いながら、今後、具体的に何を支援していくことがベストなのかを考えることが大切である。率直なお話を伺いたい」というご挨拶をいただきました。

続いて、小岩和彦会長が「沿岸被災校に対する支援概要」と題して、平成25年度における全日本中学校長会からの義援金活用、ベルマーク財団からの支援、県中学校長会による取り組みの3点について、資料に沿って説明しました。

特に、部活動・生徒会交流等で利用するバス支援、



岩手県中学校長会役員による被災校訪問で聞き取った現状や課題・要望等について情報共有しました。

さらに、平成26年度の取り組みを紹介するとともに、今年度発刊した東日本大震災の記録集『未来への一歩を共に』を全日中の役員の方々に贈呈することができました。

質疑・懇談では、全日中の役員の方々から、風評被害の有無、義援金以外での支援の在り方、避難している生徒の実態、自治体による支援体制、風化させないような取り組み、心のケアに関する施策等についての話題があげられ、協議を深めることができました。